

令和 3 年 9 月の解説（府県天気予報）

【9 月の天候状況】

上旬は、北日本では、オホーツク海高気圧が張り出して晴れた日が多かったため、降水量は少なく、日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。一方、東日本と西日本では、前線が停滞しやすく、曇りや雨の日が多くなり、降水量は多く、日照時間は東日本太平洋側でかなり少なく、東日本日本海側と西日本で少なくなりました。沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多く、降水量は少なくなりました。気温は、北日本と東日本ではオホーツク海高気圧からの冷たい空気の影響を受けやすかったために低く、特に東日本では寡照の影響もあってかなり低くなりました。一方、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われ、晴れた日が多く、高くなりました。

中旬は、北日本と東日本日本海側では、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、日本の北から高気圧が張り出して晴れた日が多く、日照時間は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多くなりました。降水量は北・東日本日本海側で少なくなりました。東日本太平洋側と西日本では、前線や、17 日に福岡県に上陸し 18 日にかけて東進した台風第 14 号の影響で曇りや雨の日が多くなり、西日本太平洋側を中心に大雨となった所もありましたが、19 日には高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。このため、降水量は西日本太平洋側で多く、日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なくなりました。沖縄・奄美では、11 日から 13 日にかけて台風第 14 号が通過したため大雨や大荒れとなった所があり、降水量は多くなりましたが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。気温は、北日本では北からの冷たい空気の影響を受けやすく低かった一方、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われて高くなりました。

下旬は、北日本、東日本、西日本では、高気圧と低気圧が交互に通過して、天気は数日の周期で変化しましたが、移動性高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。22 日から 23 日にかけては北日本を通過した低気圧の影響で雨となりました。26 日頃は上空の寒気や湿った東よりの風の影響で東日本を中心に雨が降り、大雨となった所がありました。30 日は北日本を通過した低気圧や日本の南を北上した台風第 16 号の影響で北日本と東日本太平洋側を中心に雨となりました。沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりました。このため、日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側と東日本及び西日本で多くなりました。沖縄・奄美の日照時間は平年比 151%で、9 月下旬として 1961 年の統計開始以降 1 位タイの多照となりました。また、降水量は西日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本太平洋側、西日本日本海側及び沖縄・奄美で少なくなりました。気温は、北日本と東日本では、22 日と 30 日に南から暖かい空気が流れ込んだため高くなりました。西日本と沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすく、かなり高くなりました。

【9 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より 4 ポイント高い 86%で、明後日予報は例年値より 4 ポイント高い 81%でした。地方別の適中率では、明日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.4℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3℃小さい 1.0℃で、沖縄で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【11 月の天気予報の利用にあたって】

11月 は冬型の気圧配置となる頻度が次第に増え、北日本や日本海側を中心にみぞれや雪の降る日が多くなります。雪が降れば視界が悪くなり、積雪や凍結により路面が滑りやすくなるなど、降雪量が少なくても交通や生活にとって大きな障害となります。雪の予報や雪に関する気象情報に気をつけて、雪への備えを心がけてください。